

常設研究部会「意思決定法」年度報告および次年度計画について

01014803 公立諏訪東京理科大学 飯田 洋市 IIDA Yoichi

1. はじめに

常設研究部会「意思決定法」は階層分析法を中心とした意思決定法について研究のための研究部会です。2019年1月までに50回の研究会を開催してきました。2020年度はコロナ感染症により研究部会は開催されませんでした。2021年2月より、オンライン（研究部会として契約したZoom）で再始動しました。

2021年度より、執行部の体制も以下のように、主査・幹事の他、執行部として2名の会員にご協力いただいています：

主査：飯田洋市（公立諏訪東京理科大学）

幹事：大山口菜都美（秀明大学）

執行部：法雲俊栄（大阪商業大学）

杉浦伸（名城大学）

詳細につきましては、本研究部会のWebサイトをご参照ください：URL <https://orsj.org/decision/>

本稿では、再始動にあたり掲げた研究部会の目標や役割について紹介させていただき、その後、本年度（2021年度）実施した研究会の実施報告と次年度に向けた計画について説明します。特に、1月に開催する学生大会と、3月の春季研究発表会での特別セッションの実施を目標としており、ここでそれに向けた課題を記載しますので、積極的なご協力をお願いできると幸いです。

2. 設立主旨と目的（2021年継続申請書より抜粋）

階層分析法を中心とした意思決定法の理論的高度化と社会への普及を目的として活動する。理論的な側面では、従来からある意思決定法を、AI時代の活用に耐えうるような意思決定への高度化や精緻化を目指す。一方で、AIやビッグデータ時代だからこその、社会における合意形成を目指した意思決定支援法の適用事例について研究する。

研究成果報告の場として、春の研究発表会での特別セッション（階層分析法）の企画および実施を目指す。また、研究部会に関連する国際的な学会活動に参加することで、日本にとどまらず、国際的な視野で研究のレベルと質の向上を図るとともに、将来的に国際的なシンポジウムを開催するための基盤を作る。

研究部会のメンバーが所属する、日本オペレーションズ・リサーチ学会以外の学会での研究報告などを行い、そこでの研究者からの意見などを研究部会内にフィードバックすることで、日本オペレーションズ・リサーチ学会以外の学会との連携や研究交流を図る。

研究会においては研究成果の報告のみでなく、文献紹介とディスカッションの時間を設け、研究者育成や研究者間の交流にも重点をおき活動する。

3. 年間計画（2021年継続申請書より抜粋）

年間5回の研究会、1回の学生発表会、1回の学会発表会のセッションの設定を計画している（日本オペレーションズ・リサーチ学会の年度は、3月から翌年2月までの一年間）。

研究会は、当面は原則としてZoomによるオンライン開催とするが、新型コロナウイルスの影響が収束すれば、対面による研究会も開催していく。具体的には以下の通り：

- 当年3月、6月、8月、9月、12月に研究会を開催する。
- 翌年1月に学生発表大会を開催する。
- 翌年3月の研究発表会で「意思決定法」部会としてセッションを組む（3～4件の発表）。

各研究会では、原則2件ずつの研究報告をする。そのうち1件は、講師として研究報告を依頼してよいものとする（謝金有）。学生発表会は、研究部会のメンバーの学生に限定することなく、意思決定に関連する研究を行っている学生の報告機会とする。

4. 2021年度実施報告（予定を含む）

詳細は研究部会のWebサイトを参照のこと。

- **第52回 2021年3月16日（火）16:00-18:00**
 - (1) 講演者：法雲 俊栄 氏（大阪商業大学）
講演題目：生命保険業における情報化と組織の意思決定（日本生命を中心として）
 - (2) 講演者：飯田 洋市（公立諏訪東京理科大学）
講演題目：階層分析法による事務事業の有効性評価の枠組みと実践
- **第53回 2021年6月11日（金）16:30-18:30**
 - (1) 講演者：杉浦 伸 氏（名城大学）

講演題目：ブレスのパラドックスにおける階層分析によるマクロ意思決定的考察

(2) 講演者：大山口菜都美 氏 (秀明大学)

講演題目：「Multi-branch tree を用いた予算配分法とその誤差評価について」

● 第54回 2021年8月27日 (金) 16:00-18:00

(1) 講演者：小田哲久 氏 (愛知工業大学名誉教授)

講演題目：「ファジィ理論を応用した心理調査技法の開発と派生的研究：FCR法、IR法から、複数観測データの散布度と代表値の新指標へ

(2) 講演者：大山口菜都美 氏 (秀明大学)

講演題目：学生指導のための階層分析法の応用例に関する文献紹介

● 第55回 2021年9月24日 (金) 16:00-18:00

(1) 講演者：佐藤 徹 氏 (高崎経済大学)

講演題目：自治体行政におけるEBPMの推進

(2) 講演者：飯田洋市 (公立諏訪東京理科大学)

講演題目：階層分析法を活用した予算獲得のための政策の事前評価

● 第56回 2021年12月13日 (月) 16:30-18:30

(1) 講演者：笠置 剛 氏 (愛知学院大学)

講演題目：商業施設における消費者の視覚的注意と意思決定

(2) 講演者：法雲 俊栄 氏 (大阪商業大学)

講演題目：国内小売業におけるビックデータの活用状況とアンケート調査に基づく消費者動向

● 第57回 2022年1月24日 (月) 16:30-18:30

本稿執筆時点で3名の大学院生の研究報告を予定。

5. 課題について

(1) 学生発表大会の開催

早い時点で発表希望者がいないことが予想されたため、第54回の研究会で、学生指導のための文献紹介を実施しました(幹事による報告)。若手を育成すること、階層分析法などの意思決定手法を普及させることを目標にしている本研究部会としては、学生大会の実施を継続したく、多くの方からの推薦のご協力をお願いしています。また、どのようなインセンティブがあると研究発表をしやすくなるかなどの助言だけでも有難いです。なお、学部生も発表者の対象としていますが、あくまでも学術的な研究上にあるという意味で、指導教授が責任をもって指導している学生に限定しています(学生単独での自薦は不可)。

(2) 特別セッションへの参加

今回(2022年3月開催)の春季研究報告会では、年間計画通り特別セッションを設けることができました。しかし、研究報告者に偏りがあることは否めません。次年度は、主査、幹事以外の研究報告者にご参加いただけると幸いです。通常の研究部会で報告していただき、その延長線上に特別セッションがあると考えていますので、是非、通常の研究会にてご発表いただけると助かります。

6. 2022年度実施計画

2021年度の実施状況や反省を踏まえ、以下のような計画を立てました。研究報告者としてご参加いただくと研究部会の活性化につながりますので、積極的な参加をよろしく願います。

● 当年6月、8月、9月、12月に研究会を開催する。

● 翌年1月に学生発表大会を開催する。

● 翌年3月の研究発表会で「意思決定法」部会としてセッションを組む(2~3件の発表)。

本原稿の執筆時点では、オンライン開催を念頭においています。また、8月、12月の研究会では1件の研究報告と、研究者交流会のようなものを1枠での開催を計画しています。これは、1時間の研究報告に対しての質疑応答時間が短かったこと、また、参加者間の交流機会を設けることができなかったという反省によります。

7. おわりに

研究者の研究環境が悪化している現状において、継続的な研究活動により研究成果を上げることが難しい時代になっています。たとえば、大学教員であれば、授業のオンライン化などにより、授業準備や実施した授業のフォローアップなどにかかなりの時間がとられています。また、学生指導も年々きめ細かくなっており、かなりの時間が割かれています。このような環境下で、五年後十年後の研究者としての自分の姿を考えると、いかに研究者仲間と協力しながら研究成果を上げていくかが切実な問題と言えます。本研究会は、そのような研究者の交流の場となり、また、気楽に登壇できる研究機会を設けることで、それぞれの研究者が自己研鑽できる場を提供したいと考えています。是非、このような機会を有効に活用していただきたく、ご支援とご協力をよろしく願います。